

久谷地区地域振興構想事業基本計画

(令和7年度～令和16年度)

久谷地区まちづくり協議会

令和8年3月31日策定

久谷地区地域振興構想事業 基本計画

I 基本計画づくりの背景

松山市は平成12年から「坂の上の雲フィールドミュージアム構想」を掲げ各地域の特色を生かした回遊性の高いまちづくりを推進してきましたが、近年の社会情勢の変化や地域まちづくりのニーズの多様化等を受けて、各地域の特性や課題を見つめなおし、今後10年間を見据えたまちづくりの方向性を示した「松山市地域振興構想」を令和7年度から推進しています。その中で、久谷地区の地域別構想として地域振興の方向性や方策が示されています。

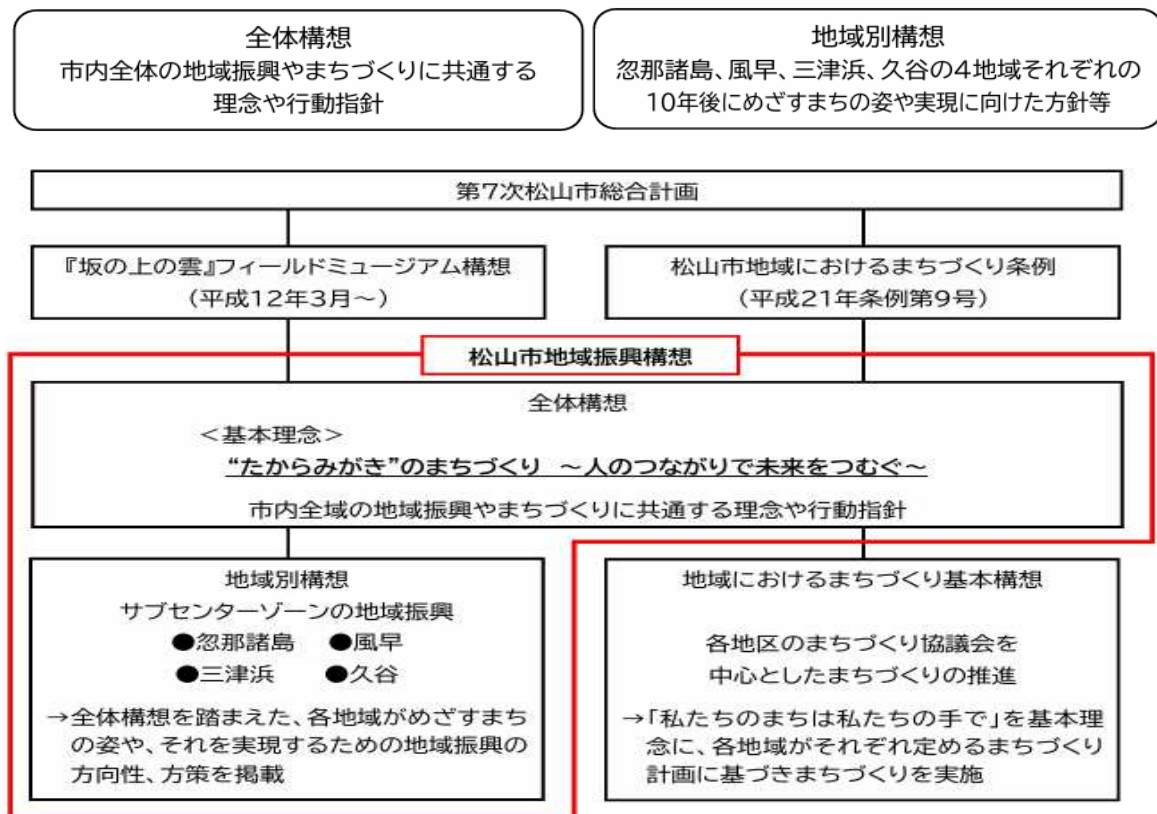
これを受けて、久谷地区では、「里山の風景のなか、人と人が語らいお接待の心が広がるまち」をめざすまちの姿として、お遍路文化が根付き、日本三大狸伝説ゆかりの地という「物語性」を活かし、また里山の地域特性をいかしたブランディングによる情報発信や教育機関と連携したまちづくりに取り組むため、10年先を見据えた久谷地区地域振興構想事業基本計画を策定しました。

松山市地域振興構想(概要)

1. 構想策定の目的

- ・平成12年に『坂の上の雲』フィールドミュージアム構想を掲げ、忽那諸島、風早、三津浜では、それぞれ構想や計画を策定し、行政と地域が協働して重点的な施策を実施してきたほか、まちづくり協議会などを中心とした市民主体のまちづくりを推進してきました。
- ・こうした取組の開始から一定期間が経過したことから、昨今の社会情勢の変化等を踏まえ、各地域の特性や課題を見つめなおし、今後のまちづくりの方向性を示すために策定します。

2. 構想の構成 ※計画期間:10年(令和7(2025)年度～令和16(2034)年度)



（松山市地域振興構想より抜粋）

3. 久谷地区の地域構想の概要

■目標									
めざすまちの姿		里山の風景のなか、人と人が語らいお接待の心が広がるまち							
[定性目標1] 地域で開催されるイベントやお接待に、大人からこどもまで関わる人が増え、コミュニティが活性化している									
[定性目標2] 地域内外に久谷のファンが増えて、久谷を訪れている。									
目標計画期間までの経過年									
R 7	R 8	R 9	R 10	R 11	R 12	R 13	R 14	R 15	R 16
■方針									
方針1. 里山とともに守られてきた物語を未来につなぐ お遍路さんへのお接待など、坂本屋や渡部家住宅を有効活用するとともに、地域資源を紹介するマップなどを活用し、地域住民も外から訪れた人も久谷地域内を楽しく回遊できるようにするなど、これまで守られてきた久谷の歴史や文化を次代につないでいきます。また、訪れた人がおもてなしの心や田園風景の癒しを感じられるように、里山の雰囲気維持・継承に取り組みます。									
方針2. 全国に通じる宝を生かした“久谷”のブランディング 豊かな自然が生み出す農作物や、狸伝説など全国に通じるポテンシャルを秘めた地域資源を生かして、窪野の献上米など食文化を通じたブランディングや、久谷＝たぬきとイメージできるような地域産品の開発に取り組みます。また、リニューアルしたまちづくり協議会のホームページを活用するほか、久谷を訪れたお遍路さんから久谷の魅力を発信してもらえるような仕掛けづくりに取り組みます。									
方針3. 地域の特性を生かした交流の場づくり 地域の小中学校と地域が連携し、学校主催のイベント等へ地域が関わるなど、学校を中核とした子どもと大人が交流する仕組みをつくることで、地域コミュニティの活性化につなげます。また、地域内の交流だけではなく、他の地域と相互の交流を生み出すような取組についても検討します。									

(松山市地域振興構想より抜粋)

II 基本計画

久谷地区は松山市の南部に位置し、緑豊かな田畑が広がる農地や自然豊かでのどかで落ち着いた地域であるとともに多くの文化史跡もあり、それらを活かしたまちづくりを進めることが賑わいのある地域振興につながるものと考えます。基本計画では、久谷地区が抱える課題や問題点を洗い出し、それらの解決の一助となる事業や、地域の持つ特色や資源を活かした各種事業を短期（8～10年度の3年間）、中期（11～13年度の3年間）、長期（14～16年度の3年間）に分けて取り組みます。

初年度	短期計画			中期計画			長期計画		
R 7	R 8	R 9	R 10	R 11	R 12	R 13	R 14	R 15	R 16
									
振興事業計画の策定、賑わい創出イベントの開催。	中長期的な取組を見据え、実態調査分析や試験的实施及び、事業実施体制の構築などを進める。また、地域内外に積極的な情報発信に努める。			短期で実施してきた試験的实施や調査分析の結果を踏まえ、事業効果を検証し、持続的かつ効果的な事業を選択し、段階的に実施する。			中期で実施してきた事業成果をもとに、継続実施の可能性や必要性を判断し、継続的・発展的な成果が期待できる事業に集中して取り組む。		

1. 久谷地区のまちづくりの課題

久谷地区は高齢化の進展や少子化問題も深刻で人口も減少傾向にあり、また後継者不足による耕作放棄地や空き家の増加など過疎化が進んでおり、その対策も地域の重要な課題となっています。

- 1) 乗合タクシーの利用促進
- 2) 少子高齢化に伴う産業の担い手不足の解消
- 3) 空き家や耕作放棄地の増加
- 4) 自然や歴史・文化などのPR・情報発信の促進の強化
- 5) 地域内外の交流促進

2. まちづくりの方針

松山市地域振興構想の久谷地区別構想では、“里山の風景のなか、人と人が語らいお接待の心が広がるまち”をめざすまちの姿として、“物語を未来につなげる”、“久谷のブランディング”、“交流の場づくり”の3つの方針が示されています。加えて、地元子どもたちとの交流や地域への愛着を高めることも重要であると考えます。

- 1) 里山とともに守られてきた物語を未来につなぐ
- 2) 全国に通じる宝をいかした久谷のブランディング
- 3) 地域の特性をいかした交流の場づくり
- 4) 子どもとの交流や地域への愛着を高める

3. まちづくりの5つのアプローチ

地域の課題への対策を講じながら、まちづくりの方針に沿って賑わいのある活力に満ちたまちづくりを達成するために次の5項目に取り組みます。

- 1) 交流人口の拡大（地域の魅力を発信し、訪問者を増やすためのきっかけづくり）
- 2) 関係人口の創出（イベント参加やふるさと納税を通じた継続的な関係構築）
- 3) 移住定住の促進（県内外からの移住者や二地域居住者の受け入れ環境整備）
- 4) 子どもたちのシビックプライドの醸成（子どもが久谷に誇りを持ち、地域に主体的に参加する仕組みの構築）
- 5) 地域インフラの整備（空き家活用やコミュニティ交通など生活基盤の課題解決と利便性向上）

4. 具体的な事業計画（予定）

1) 短期計画（令和8～10年度）

中長期的な取組を見据え、実態調査分析、試験的实施、体制構築、情報発信に努める。

（1）継続して実施する事業

① 久谷たぬきの OSETTAI マルシェの開催

賑わい創出や交流人口の拡大として、久谷在住、もしくは事業所を構える事業者が出店するマルシェを渡部家住宅で開催する。

また、E バイクでの久谷周遊ツアー体験などのアクティビティコンテンツも試験的に取り入れ、集客力や継続性などを検証する。

② 小中学校での郷土学及び探究学習支援

学校内での「総合的な学習（探究）の時間」等を活用し、久谷のまちづくりについて触れ、考える機会を創出する。

（2）調査分析する事業

① 空き家の情報ネットワーク構築、実態調査

久谷地域内の住民と協力し、空き家情報収集のためのネットワーク

網を構築し、そこで得た物件情報を元に空き家調査を行い、収集情報を整理分析し、将来的な空き家利用について検討を行う。

将来的には、それらの情報を活用した「久谷里山空き家バンク」の開設に繋げていく。

② 予約制乗合タクシーの利用拡大

利用率が減少傾向にある乗合タクシーの利用拡大に向けた具体的な方策を検討し、段階的に実施する。

③ 地域にある文化史跡の実態調査、活用策の検討

地区内に点在する石碑や句碑などの位置確認や現場の保存状況等を調査し、必要に応じて維持管理の方法も検討する。また、これらの歴史資産を利用した散策ルートの開発や教材としての活用を図る。

この事業は学生の総合的学習として地元学生たちと協働で実施する。

(3) 情報発信事業

① キャッチコピー策定、SNS での情報発信

久谷の魅力を凝縮した印象的なメッセージを創出し、統一したブランディングを展開する。また、地域の日常やイベント情報をリアルタイムに発信する。

(4) 試験的実施の事業

① 里山体験メニューの実施

個人や団体が個々で農業体験などが実施されている事例もあることから、横の繋がりを増やし、その他の地域資源（山、川、農産物など）を生かした新たな体験メニューを開発して地域住民の協力を受けて試験的に実施し、継続性や参加者の感想などの効果分析を行う。

2) 中期計画（令和 11～13 年度）

短期で実施してきた試験的実施や調査分析の結果を踏まえ、事業効果を検証し、持続的かつ効果的な事業を予算の範囲内で選択し、段階的に実施する。

(1) 継続して実施する事業

① 久谷たぬきの OSETTAI マルシェの継続開催

新たに地域の子どもたちが関わるブース出店を検討し、シビックプライド醸成にも繋げる。

② 小中学校での郷土学及び探究学習支援

学校内での「総合的な学習（探究）の時間」等を活用し、久谷のまちづくりについて触れ、考える機会を創出する。

(2) 新たに取り組む事業

① 周遊体験ツアー

実験的に行なった E バイクでの周遊ツアーを単独コンテンツとして実施する。

② 久谷里山空き家バンク開設・運営

所有者の流通承諾を得た地域内の空き家情報を掲載した空き家バンクの WEB サイトを構築し、空き家物件の流通を促す。

③ 久谷ブランド品の県内外の販売促進支援

地元生産の農産物や新たな商品開発に取り組み、久谷ブランド品と

して、道後エリアや東京・大阪などの物産展・出展のための販売促進支援を行う。

(3) 情報発信事業

① SNS での発信、キーパーソンインタビュー記事作成

久谷の魅力を凝縮した印象的なメッセージを創出し、統一したブランディングを展開する。また、地域の日常やイベント情報をリアルタイムに発信し、生活をイメージできるコンテンツへと進化させる。

3) 長期計画（令和 14 年度～16 年度）

中期で実施してきた事業成果をもとに、継続実施の可能性や必要性を判断し、継続的・発展的な成果が期待できる事業に集中して取り組む。

(1) 継続して実施する事業

① 久谷たぬきの OSETTAI マルシェの継続開催

賑わい創りの象徴的なイベントとして確立させる。

② 小中学校での郷土学及び探究学習支援

学校内での「総合的な学習（探究）の時間」等を活用し、久谷のまちづくりについて触れ、考える機会を創出する。

③ 久谷里山空き家バンクの継続運営

地域内の空き家の追跡調査を実施し、掲載情報の充実及び最新化を図り空き家バンクサイトをより活性化させる。

(2) 新たに取り組む事業

① 交流拠点（空き家利活用支援）の整備検討

空き家を利活用し、お試し住宅や民泊、シェアハウスなどを兼ね備えた交流の場が整備されれば、まちづくりの拠点ともなる。

ただし、これには多くの費用を伴うことから将来的な課題としてその在り方や整備計画などの検討に取り組む。

② 地域おこし協力隊の導入

交流拠点をベースに久谷地区のまちづくり（情報発信、空き家対策、体験プログラム開発など）を担う人材を発掘して「地域おこし協力隊」を導入する。

(3) 情報発信事業

① SNS での発信、コンテンツ作成

久谷の魅力を凝縮した印象的なメッセージを創出し、久谷ブランドをより浸透させる。また、地域の日常やイベント情報をリアルタイムに発信するほか、空き家情報など移住促進にも繋げる発信を目指す。

5. 基本計画の実現に向けて

短期・中期・長期で計画している事業に実施に当たっては、毎年度その実効性及び必要性を検証、見直しを図りながら予算の範囲内において実施するものとする。